

私はこの「相沢がエリスに豊太郎が帰ることを伝えた理由」というテーマを見たときに、確かになぜ豊太郎自信ではなく相沢が伝えたのだろうか？そこには何か意味があったのだろうか？ということ、他のテーマよりも疑問に思い、この理由を根拠立ててしっかり見ていきたいと思ったのでこのテーマを選んだ。そしてそれを考えた結果、私は、相沢は豊太郎のことを思い、このせっかくの「豊太郎が天方大臣や自分と一緒に日本に帰れるかもしれない」というチャンスがつぶれてしまわないように、相沢がエリスに言ったのだと考えた。

これがどういうことかと言うと、まず相沢は本分 P 2 8 5 の 3 行目「余が品行方正なるを激賞したる相沢」というところから、豊太郎の品行方正さを激賞していて、そして豊太郎が官僚の職をクビになった時には、東京から豊太郎を助け、また久しぶりに会った時には豊太郎に質問をたくさんし、よく聞き「悪いのは豊太郎じゃなくてまわりの者達だよ」などとかばっているところなどから、豊太郎のことを悪いふうじゃなく、よく思っているのは明らかである。そして P 2 8 6 の 7～8 行目「学識あり、才能ある者が、いつまでは一少女の情にかかづらひて、目的なき生活をなすべき」というところからも、相沢は、豊太郎には学識や才能があるのだからお前にはもっと他にすることがあうだろう、それをもっと生かして豊太郎の将来のためにも一緒に帰ってきてほしいのだと考えていると考えられる。豊太郎にとっては、裕福ではなくても楽しく愛する人、エリスと過ごすのか、また名声を得て昔の豊太郎らしい、しっかりとした職につき将来を過ごしたほうがいいのか、それはどちらがいいのかはわからないが、相沢は当然後者の方がいいと考えるからこそ、本文でエリスとの関係を断つように言ったのである。

そして次になぜそこで豊太郎に「エリスとの関係を断とう」と言われたのに、わざわざ相沢がエリスに言ったのか、というところである。

この理由として私が考えるのは、相沢は豊太郎の心の弱さを知っており、豊太郎がせっかくつかんだ、先に述べたようなチャンスを失わせたくないから言った、というものである。どういうことかと言うと、まず相沢が豊太郎の心の弱さや優柔不断さを知っているというのは、本文 P 2 8 6 の 5～7 行目「この一段のことはもと生まれながらなる弱き心より出でしなれば、今さらに言はんも甲斐なし」というところからわかる。

また相沢は天方大臣に「滞在時間があまりにも長いので、いろいろなしがらみがあるのか」などと聞かれてしまう。ここで当然相沢は、はやくしないとまずい、と思うだろう。そしてその後、豊太郎と天方大臣が話し、豊太郎は「すぐに帰ることを、承知しました」とは言った。けれども、以前にも相沢は豊太郎に「エリスとの関係を断とう」と約束されたにもかかわらず、豊太郎はなかなか断つことができず帰ろうとしなかった。となると、相沢が、自分に言った時にもなかなか自分では断たなかったのに、今回もまたなかなか言えないだろうと、思うはずである。そうすると今度は、天方大臣が、今度こそ、遅いのでお怒りになられたりして、気をかえてしまったらどうしよう、とも当然思い焦るはずである。だからもうぐずぐずしている豊太郎を待っていたらこのチャンスがつぶれる、と思い相沢

が直接言いに行った。

このような流れで、エリスに言ったんだと私は考えた。

なぜ豊太郎が寝ているときに言ったのかと言う疑問もあると思う。

だがそれについては、さきほどのような流れで、そうして相沢がエリスに言おうとして、来てみたら、豊太郎が風邪でたまたま寝込んでいた。だからしかたがないから、そのままエリスに言った。それだけのことである。相沢が、豊太郎が今寝込んでいるということを知る余地なんてないし、そんな記述も一つもないので、見計らってきたのではないと言える。

以上のことより私は、「相沢がエリスに豊太郎が帰ることを伝えた理由」を、相沢は、豊太郎のことを思い、このせっかくの「豊太郎が天方大臣や自分と一緒に日本に帰れるかもしれない」というチャンスがつぶれてしまわないように言ったのだと考える。